

1964.02.12

エルネスト・チェ・ゲバラ工業相へのインタビュー

(インタビュアー：リサ・ハワード)

西尾幸治訳

期日：1964年「経済の年」2月12日

公開日：2017年6月29日 ブログ「Dialogar、dialogar」(対話する、対話する)

(このインタビューは、2017年1月20日と26日に「キューバ・テレビ」の番組で、会見の様様を未編集のオリジナル録画映像を2回に分けて放送したものです。そのうちの一部(22分間)は1964年3月22日にABCテレビが英語吹き替えで放送しました。録画は、当時のキューバ工業省の執務室で行われました。)

(国家評議会による速記版)

本邦初訳です。中見出しは訳者が付けたものです。

<経済建設の困難について>

リサ・ハワード*：ゲバラさん、報告によれば、革命が勝利して以降、キューバ経済はあらゆる部門で悪化しています。工業生産や野菜の栽培がそうですが、昨年のサトウキビの収穫は350万トンと最低でした。このような経済的悪化をどう説明されますか？

*訳注：リサ・ハワードは、米国ABCニュースの最初の女性特派員です。彼女は、キューバを三度訪問し、1963年4月フィデル・カストロとインタビューしています。

エルネスト・ゲバラ：まず初めに、その質問は一つの意見です。ですので、その意見に反論しなければなりません。それから質問にお答えします。

キューバ経済のあらゆる面が革命の経過とともに悪化したという見解は、間違いです。工業生産は、1959年から現在までに増加しました。製糖業では実際に生産が低下しましたが、もし製糖業による影響がそれほどなければ、工業生産は、もっと増加していたことでしょう。工業生産は、製糖業と、またこの2年間を除いて、年約7%のペースで増加してきました。つまり、昨年1963年と64年(予想)はそれよりも大きな増加です。63年は約10%増で、64年は、製糖業も増える見通しですし、それよりも大きいと予想しています。

農業部門では、いくつか問題がありましたが、全面的というものではありません。サトウキビはキューバの主要な作物ですが、未だに単一栽培(モノカルチャー)の性格です。しかし、かなり減少しました。その原因は、我々の砂糖政策のまずさと、ここ2年間の異常な干ばつにあります。にもかかわらず、農業のその他の部門では、同じにはなりません。部分的ではあるがいくつかの成果を収めています。すでに綿花がキューバで作られており、ケナフも同様です。これらは以前には知られていなかった作物です。

あらゆる分析を製糖業に集中させるべきだと考えています。砂糖生産は、あなたが述べたような、350万トンではないものの、確かに380万トンと数年間で最低の数字です。すでに今年には増加する予定です。何トンと言うことはできませんし、大きな増加とも思っていません。というのも、ハリケーンが栽培中にきて、収穫に悪い影響を与えたからです。でも増えてはいるでしょうし、今後砂糖は確実に増加していくでしょう。



すでにお答えしているように、一般的に工業生産は持続的に増加しています。わが国に科せられている異常な経済封鎖を考慮すると、これはかなり大きな成果と考えるべきです。

<米国の対キューバ経済封鎖>

リサ・ハワード：キューバに対する経済封鎖の影響はどれくらいなのでしょう？

エルネスト・ゲバラ：数字は提示できません。少なくとも、私はキューバへの封鎖の影響について正確な数字を示すことはできません。というのは、経済封鎖にはマイナスの面とプラスの面があるからです。プラス面には、国民意識、困難を乗り越えようという国民の闘争精神の高まりがあります。しかし、キューバのすべての機械類が、ほぼすべてのキューバの工業が、そのうちのいくつかはキューバ国内で独占的な性格を持っていましたが、米国から送られていたこと、加えて、キューバがすべての米国の旧式の機械類を引き受けていたこと、それによって米国の資本家たちは利益を蓄積し続けていたこと、すでに多くの製品が生産中止となっていることを考慮するなら、こうした状況を克服するためには並外れた努力が必要だったと理解できるでしょう。

具体的な数字を示すことはできませんし、私は知りません。経済封鎖により、明らかに大きな遅れをもたらしています。今では、我々にとってプラスの教訓、将来的にキューバ経済をどのように運営すべきかについての教訓となっています。ほぼ、あなたの質問には答えたと思います。

<ソ連の「援助」とは>

リサ・ハワード：ソ連は、日々、かなりの金額をキューバ経済に注入しています。もし突然こうした支援がなくなれば、キューバ経済はどうなりますか？

エルネスト・ゲバラ：日常的に多いこうした見解は、実際、米国流の考え方に属するものです。投資という概念は、おそらく、米国人が行う援助というものについての考えに少しは合致します。南米諸国への米国の援助は、後にはこれらの国自身の利益に反するものになります。キューバの場合、援助と呼べることができたのは、一定の貿易債務と完全に貿易上の長

期融資の帳消しでした。それ以外は、二国間の通常の貿易です。

キューバにとって、輸出入の第一の相手は米国ではなくっており、今はソ連です。ソ連の援助がなくなるとどうなるかというあなたの質問、つまり貿易取引全体について言うなら、国の生命が麻痺してしまうと答えることができます。なぜなら、例えば、石油はすべてソ連から来ており、それはほぼ年間400万トンです。しかしそれは援助ではなく、完全に対等な意味での貿易取引です。我々は、キューバの砂糖やその他の産品で支払います。援助は、ここ数年の悪い砂糖収穫からきたもの、つまりキューバの輸入に対してソ連が輸出超過で貿易赤字となったことからきたものでした。ここ数年は、砂糖価格の上昇によってかなり減っています。常にキューバは、ソ連に対して貿易赤字ですが、現在、我々の貿易状況は、かなり均衡しています。もっとも、常にソ連との貿易赤字はあります。その他に投資での援助があります。これは量的にかなり大きいので、もしストップすることになると、キューバの工業発展は停止するでしょう。したがって、「援助」という用語は、ソ連とキューバの関係にとって最も正確な言葉ではなく、厳密に使用しなければなりません。我々が保持しているのは、社会主義国間の平等な関係であり、互恵の貿易を行っているのです。

<キューバと社会主義>

リサ・ハワード：キューバの体制を批判する人たちの多くは、キューバの繁栄は共産主義の宣伝の効果であると考えています。しかし、キューバからのイメージとキューバの真実の姿の間には違いがあります。この点に関してはどうでしょうか、ゲバラ博士。



エルネスト・ゲバラ：むしろ、私の方があなたに、あなたの意見はどうですかと質問しなければならないと思います。というのは、私はキューバ革命に対する私自身のイメージを持っており、おそらくは自分が就いている地位のために偏っているかもしれないからです。アメリカの、我々のラテンアメリカの人々、また一般的に世界中の人々は、キューバ革命に対して別のイメージを持っています。キューバに来るとその2つが衝突し、その時ショックが生まれます。しかし、このショックはキューバの外から来る人々に生じるものです。我々は、自分たちのすべてを批判しますし、すべての悪い点について批判して、キューバ革命の発展を批判的に深く見るのが習慣になっています。我々は、前進していることにしばしば気づいていませんし、その前進について注意を喚起してくれるのは、キューバをたびたび訪れるあなた方なのです。ですから、インタビューを受けるものとして、私があなたにその質問を行う方が良いと思うのです。

リサ・ハワード：ゲバラ司令官、キューバ国外の多くの証拠が、マルクス主義的な経済システムは機能していないことを示しています。その国の人々に豊かな生活を提供していません。47年経って、ソ連ははまだ、ソ連国民にふさわしい衣食住を提供することができていません。マルクス主義のシステムが、高い水準の生産性を実現するのに適切なインセンティ

ブを与えていないことに原因があると思いますか？

エルネスト・ゲバラ：あなたには、質問の中にあなたの見解を滑り込ませる傾向がありますね。私は、まず、再度、先ずその見解に反論しなければなりません、そのあとで質問にお答えしましょう。

あなたは、マルクス主義のシステムが人々に福祉を与えないことが示されていると断言していますが、まったく反対だと私は思っています。米国と比較すると、いかなる国の国民の生活水準も低いものです。しかし、あなた方が、ラテンアメリカや自由世界の生活様式について話しをする際には、その自由世界について考えなければなりません。例えば、約2億人いるラテンアメリカでは、餓えや病気で人が亡くなり、成人年齢にも達していません。なぜなら子どもたちが飢えで死亡するからです。これらすべての人たちは、何らかの形で搾取されている大規模な米国経済に貢献しています。アフリカでもそうですし、アジアでもそうでした。マルクス主義は、こうしたものすべてを打ち砕くのです。

キューバでは、明らかに今、多くの人たちにとって前よりも苦しい状況があります。しかし、より多くの人たちにとっては前よりもはるかに良い状況があります。そのことは、あなたは地方を旅行して、キューバの農民たちがどのように生活していたか、製糖業の労働者たちがどのように生活していたかを実際に知れば、そうした状況を確認することができます。そして、そうすればおそらく、質問の解答を見つけることができるでしょう。

我々がアメリカ帝国主義に包囲されているこの時期、わが国民に、我々が望むものをすべて与えることはできません。しかし、平等な条件の下で、大臣から政府内のその他のいかなる地位の人々に至るまで、我々が与えることができるものはすべて与えてきました。今まで我々は、そうした能力があったのです。このことが、諸国民が解放のために闘い続けている主な理由なのです。

北ベトナムは、すでに解放されています。しかし、南ベトナムでは、米国の生活様式の中により良いものを見つけることができず、むしろ反乱が起こり、武器を取って米国の干渉を打ち負かしつつあります。人々を闘いに向かわせる背景には何があるのか、マルクス主義が諸国民により良い生活を提供しているのではないのか、考えてみてください。

(訳注：ここでハワード記者はタバコを、ゲバラは葉巻を吸い、一服)

リサ・ハワード：しかし米国政府は、ラテンアメリカにおける諸問題についてかなり知っています。「進歩のための同盟」を通じて、かなり努力して西半球全体にいる人々の生活水準を向上させようと取り組んでいます。ところで、支配層が農業改革や税制改革を実施することに合意し、生活水準が向上すれば、キューバ革命のメッセージはその意味を失うのではないのでしょうか？

エルネスト・ゲバラ：そうです、すぐに意味を失うでしょう。キューバ革命のメッセージは、

そうした意味も持っています。なぜなら、帝国主義は、その性格からとても微温的な改革しかできず、問題の本質には到達しないからです。ラテンアメリカ全体が帝国主義の支配から解放されるなら、帝国主義自身も、極めて深刻な問題を抱えるでしょう。帝国主義が存続する土台は、不等価交換貿易、原料と工業製品との貿易を通じてラテンアメリカ諸国を支配すること、帝国主義に身を売った寡頭制支配層を通じて各国政府内のすべての決定的要因を握ることです。もしこれらすべてが変わるならば、帝国主義は、その力を失い、その時、資本主義は、全般的危機に直面するでしょう。つまり、それはまさしく、その国内の労働者階級自身の間の危機です。現在労働者階級は搾取されていますが、その搾取は見えません。なぜなら、それはラテンアメリカ、アフリカ、アジアに転換されているからです。したがって、闘いは、直接、米国内部に存在することになるでしょう。

したがって、当然のことながらキューバ革命のメッセージは、その時にはまったく重要性を失うでしょう。だがそれは必要でもないでしょう。というのは、まさしくそれは、我々の諸国民、ラテンアメリカのすべての国民のために我々が望んでいることだからです。みんなが望んでいることが獲得された後には、すでに重要性を持たないメッセージを発する必要はありません。

<キューバ革命の道は？>

リサ・ハワード：それでは、これらの改革が実行されるという願望について、私たちには合意があるのでしょうか？

エルネスト・ゲバラ：真の改革？国民が権力に到達することですか？ それなら、同意します。

リサ・ハワード：ゲバラ司令官、あなたは、それは漸進的なプロセスを通じて生み出されるのではなく、暴力的、そして革命的な激動の結果でなければならないと、考えていますか？

エルネスト・ゲバラ：それは、つねに反動階級次第です。彼らは、権力を失うこと、権力がもたらす利益を失うことを拒否するものです。国民の力が、平和的な手段を通じて反動階級に権力を放棄させることができるものなら、そうなるでしょうし、それはみんなにとってとても良いことです。反動階級があらゆる方法で権力を維持しようとするなら、誰の意思とも、誰の願望とも関係なく、ラテンアメリカ全体、あるいはラテンアメリカの一部を燃えあがらせる火花が生じるでしょう。そして、決定的に、国民が権力に到達するでしょう。

リサ・ハワード：キューバが米国のために原料を生産し、米国が作った工業製品を購入しなければならなかった時、あなた方は、それを、経済的植民地主義の最悪の形態と呼んでいました。今再び、キューバは農業を優先する同じ役割を、ソ連のシステムとともに引き受けています。これは、突然受け入れ可能なことでしょうか？



エルネスト・ゲバラ：はい、質問は理解します。

いや、あなたが言っていることは、まったく正確ではありません。

第一に、それは、正確を期すれば、帝国主義が押し付けている単なる原料と工業製品の交換というだけではなく、こうした貿易関係に付随するすべての要素であるということです。キューバは、米国に砂糖を販売し、工業製品を受け取っていました。しかし、米国に売っていた砂糖は米ドルに変換して、また米国に流れて行きました。このほかに、キューバに届いてきた工業製品は、かなりのものが米国の工場のために来ていたものであり、キューバで製品に加工され、販売され、キューバ・ペソは米ドルに交換されて、また米国に流れて行きました。これが、ある国に対する帝国主義的支配の一つの側面です。

さて、原料と工業製品の直接交換についてです。まさに、我々は、これについてソ連と長い交渉を行ってきました。こうした交渉から砂糖の特別価格が生まれました。これはまさしく、まったく異なる土台の上で、社会主義的關係が、作られている明白な実例です。キューバの砂糖に対してソ連が支払う価格によって、キューバは自らの工業を発展させるのに十分な機械類を輸入し、すでに工・農業国へ転換し、単なる唯一の原料の輸出国ではなくなる事ができたのです。

リサ・ハワード：ゲバラ司令官、シエラ・マエストラで闘っていた時、キューバ革命が、これほど急進的な方向に進むと予想していましたか？

エルネスト・ゲバラ：私は、少なくともそれを直観的に感じていました。当然、革命のこれほど激しい形態と発展は、予想することはできませんでした。マルクス・レーニン主義による革命の定式化すら、予見することはできませんでした。これは、あなたがよく知っている長いプロセス全体の産物でした。

我々は、我々とともに闘った農民や、我々が知っていた労働者の中にはっきりと見ていた諸問題を解決する考えを、やや漠然とした形で持っていました。しかし、我々の思想形成の全過程について語るのはとても長くなるでしょう。

そこで、米国が革命の進展に重要な関与を果たしましたし、米国の行動が革命を加速させたことは疑う余地がありません。

<キューバ国民と規律>

リサ・ハワード：共産主義は、キューバ人の気質とは両立しないと言われています。共産主義社会の厳格な規律を順守することは、キューバ人になんらかの影響を与えますか？

エルネスト・ゲバラ：それは、共産主義についての多くの解釈の一つです。共産主義は、人々が作ります。したがって、人々は自分に似せてそれを作ります。キューバの人種的・社会的・文化的構造の特殊性は、新しい社会を作り、建設する我々のやり方に入ってきます。規律は、けっして国民に無関係なものではありません。単に、ある発展の段階に照応するものです。一年に一度しかない収穫があって、その収穫が風、太陽、雨に依存するとき、時間は重要ではないし、規律は、少ししか重要ではありません。しかし、発展のペースに従わなければならないとき、工業が存在するとき、一分ごとが固有の重みがある時、その時には、規律は自然と生まれてくるはずで

我々の発展プロセス、国の工業化の過程の中で、規律は、その固有の重要性から、全国で確立されるものであり、死活的な重要性があります。国民はそれを理解し、すぐに自らの生き方に取り入れます。

<官僚主義の根源は？>

リサ・ハワード：キューバの現状を熟慮すると、我々には、次の2つの主要な問題があるように見えます。それは、共産主義のために国民に規律を植え付けることの難しさと、官僚主義の増大です。あなたは、これら2つは、主要な問題であると思われませんか？

エルネスト・ゲバラ：我々の問題において、ということですか？

リサ・ハワード：はい。

エルネスト・ゲバラ：我々の主要な二つの問題とは、帝国主義と帝国主義です、その後で、その他の問題が出てくるでしょう。しかし今は、あなたが私に質問したことについて答えましょう。

官僚主義は、問題です。それは、非常に急速に幹部が作られなければならない社会の産物であり、それらの幹部は、その発展段階に対応する能力がなく、数を質で代えることが少し行われます。有能な一人の人物がある仕事をするところ、同じ仕事を行うのに10人の人が必要とされます。彼らは議論し、考えを交換し、疑いを持ち、そして間違えを犯します。現在、官僚主義は、キューバでは一つの障害となっています。しかしそれは過渡的な障害です。見習い期間の障害です。その後我々はこれを取り除いてしまうでしょう。

私は、キューバにおいて、規律が問題であるとはまったく考えていません。もし、あなたが1月2日にキューバにいて、我が革命軍の行進を見ることができていたなら、彼らは全員キューバ人であって、行進しているのはコンゴ人でも、中国人でも、ソ連人でもありませんでした。それは真の軍隊であり、私たちが作り上げたのであり、我が国民が作ったのです。したがって、規律は、我が国民にとって問題となってはいません。

リサ・ハワード：この官僚主義、また組織の弱点という重大な問題を見てきましたが、それらをなくすために何が行われているのですか？

エルネスト・ゲバラ：まず、官僚主義の根源がどこにあるのかを確かめるために、我々が何を行ってきたかを検討し始めなければなりません。官僚主義と我々は呼んでいますが、その根源は、一部の官僚の中に内的な動機がいくらか欠如していることにあると見なしています。つまり、扱っている問題を自分自身の中で感受することができないことです。いろいろな行為が常に目の前の書類、その書類により擁護されるようになってしまう結果になるということを、ある種恐れているからです。さらに、それは共産主義においてだけではなく米国でも発展していて、米国の官公庁でもたくさんの面倒な書類上の手続きが存在します。最後に、この問題を現実に認識していないことです。したがって、我々は、今どきのようになくしていくことができるかを考えつつ、綿密にこうした原因を検討しているところなのです。そして、官僚主義は障害ではあるが、危険なものではない、革命の進展とともになくされるだろうと考えています。

リサ・ハワード：官僚主義の問題は、共産主義システムに固有なものかもしれないと思いませんか？

エルネスト・ゲバラ：いいえ、それは違うと言いましたね。我々は、官僚主義をキューバの過去の要素として引き継いでいます。それは米国にも存在しているのです。社会主義の発展の一定の時期に、官僚主義が過度に増大することがあります、ありますが、私は、この点について話をするためには、それほどの理論家ではありません。しかし、明らかに、官僚主義は、資本主義にも社会主義システムにも、両方に存在しています。

リサ・ハワード：しかし、私が経験したところでは、キューバの官僚主義は、実際に息が詰まるものです。ひとつの書類の取得に、いつまでかかるのかわかりませんね。

エルネスト・ゲバラ：そこに、官僚主義が出ていましたね。ある日、我々の刊行物を読んでいたのですが、そこには、ある雑誌から引用されていました。「The Parkintong」という名だったと思います（笑い）。

（訳者註：ここでゲバラ、ハワード記者のタバコに再び火をつける）

<米玖関係の改善の見通しは？>

リサ・ハワード：ゲバラ司令官、フィデル・カストロ博士は、たびたび、キューバと米国の

関係を正常化させたいという希望を表明しています。あなたは、このような関係の正常化を望んでいますか？

エルネスト・ゲバラ：諸原則に基づいてなら、もちろんです！ おそらく誰よりもそう望んでいます。なぜなら、工業こそ、経済封鎖に苦しんでいて、工業と運輸はおそらく、より厳しく経済封鎖に苦しんでいる生産部門だろうだからです。運輸は、今は解除されましたが、工業はそうではありません。したがって、諸原則と完全な平等に基づいた、関係の正常化が理想的であるように思われます。

リサ・ハワード：ゲバラ博士、キューバと米国の間の外交関係の復活は、キューバ経済にとって利益になると考えますか？

エルネスト・ゲバラ：外交関係ですか？

リサ・ハワード：そして、通商関係もです。

エルネスト・ゲバラ：ええ、そう、利益になるでしょう、しかし明らかに…

リサ・ハワード：すみません、別の形で質問いたします。

ゲバラ博士、キューバと米国の間の外交・通商関係の復活と、キューバ経済に対するその利益について、どう考えていますか？

エルネスト・ゲバラ：現在の時点では、当然、これらの新しい関係を再開するには、漸進的でなければなりません。キューバの大半の輸出品は、他の市場に転換しました。しかし、明らかなことは、製品、とりわけ交換部品を入手することは、我々に大変近い米国で製造されたものですから、我々にとってはより簡単でしょう。

現在、いずれにしても、今すぐ実現しないのは明らかです。このような関係がなくてもまったく完全にやっていくことができます。

<再び経済封鎖について>

リサ・ハワード：キューバへの供給ラインが、11,000キロも遠くにあるというのは、かなりの困難をもたらすものではないでしょうか？

エルネスト・ゲバラ：困難となります。きわめて困難になり、当初は、事態がとても難しくなりました。しかし、少しずつ乗り越えてきています。まもなく備蓄をすることができるでしょう。すでに我々の倉庫に備蓄が保管されていますので、困難のほとんどは打開することができるようになるでしょう。時が経過するにつれて、供給を実現するための距離は、より問題がなくなります。さらに、また、関係がより親密になって、ある年に翌年に必要な物がよりわかるようになり、それによって、キューバへの供給者は、時間をもって発送準備をす

ることが可能となります。年々、キューバ経済において、それが見て取れるようになっていきます。

リサ・ハワード：米国の経済封鎖がどのくらいの影響をもたらしたか、我々のために分析していただけますか？

エルネスト・ゲバラ：ほとんど、それは背信行為という罪への勸めのように見えるのですがね？

我々は、経済封鎖が重大な問題であると、すでに認識していますし、同じように冷静に経済封鎖が我々の前進を妨げないことを発表しています。しかし、まず、第一に経済封鎖の影響を具体的に示すことは難しいですし、またそれほどわれわれに都合のよいことでもありません。両国間に良い意向もありますが、我々は敵対しています、その敵が、単に敵対相手であるキューバの一般的なことだけを知ることならよいです。

リサ・ハワード：それでは、経済封鎖は、大きく影響を与えているとおっしゃっていると考えていいのでしょうか？

エルネスト・ゲバラ：あなたは、このインタビューが進む中で、様々なことを憶測しています。例えば、共産主義はいかなる影響も持っていないとか、生産性が後退しているとか、最後には経済封鎖は大きく影響しているとか、官僚主義は息詰まるものであるとか、です。同時に、キューバでの我々との最新のインタビューから、なにか別のことが見て取れると私に述べています。私も、あなたはキューバ革命の前進を見たと推測しますので、あなたに質問しましょう。もし、あらゆることがそんなに悪くて、経済封鎖がそれほど影響を与えているのなら、なぜキューバ革命は前進しているのでしょうか？

リサ・ハワード：私は、あなたがキューバにおいて最も率直な人であると、たびたび述べてきました。ですから、経済封鎖がどれくらい影響を与えたかを言ってほしいのです。

エルネスト・ゲバラ：繰り返し言いますが、それは言えません。数値という観点からは、それがいかなるものであれ、虚偽になるでしょう。なぜなら、経済封鎖にはプラスの側面とマイナスの側面があるとも述べたからです。しかし、あなたは、私が最も率直な人物であると推測していますが、私は、私がキューバで特別な信頼を得ているとは思っていません。キューバでは、みんな率直なのです。だが、あなたがそう推測しているのはわかりますが、人が答えることができないある種の事柄について、全く率直に述べなければならない場合が多々あります。それもまた率直なことです。

リサ・ハワード：あなた方が、ロンドンでバスを、スペインで船舶を購入したことを知っています。スイスで経済活動を行っていることも理解しています。これは、キューバ経済における根本的な変化なののでしょうか？

エルネスト・ゲバラ：あなたは、キューバ経済の変化について、それとも経済政策の変更について述べているのですか？

リサ・ハワード：経済政策の変更についてです。

エルネスト・ゲバラ：それは違うと思います。いくつかの国々の経済政策にある種の変化が起き、「自由世界」の一枚岩的団結にある種のひび割れが生じて、キューバとの取引が増えていると考えています。我々の貿易に対する態度はつねに同じもので、同じ土台の上にあります。つまり、商品は商品であって、買い手にとっても売り手にとってもその取引は相互の利益にならなければなりません。この土台の上立って、我々は、いつも世界中と貿易を行ってきましたし、外交関係がなくなったのちでさえ、米国とも貿易を行いました。

米国は、特定商品をキューバに販売させないため、たいへんな圧力を与えてきました。あなたは、イギリスのレイランド社が販売したバスに関する議論のすべてをよく知っていますね。しかし、変わったのは我々ではありません。実際に変わったのは、ある国際的な政策の側面です。我々が、このことと関係があるのかわかりませんし、それほど重要なことだとは思っていません。

<西側諸国との貿易について>

リサ・ハワード：今行っている西側とのこうした貿易は、継続し、将来的には増大すると見えていますか？

エルネスト・ゲバラ：期待しています…、つまり、長続きするように。

リサ・ハワード：このテーマについてもう少し話していただきたいのですが。

エルネスト・ゲバラ：革命勝利した当初、米国との重大な不都合が生じる前でさえ、我々は、ヨーロッパ諸国にいろいろな代表団を送っていました。それらの国に一般的には、存在したのは自粛でした。人々は、我々に生き延びる力があるとはあまり信じていませんでした。このことは、米国との矛盾が強まるごとに、より強まりました。実際、米国との貿易が年々、急速に減少していきました。しかしながら、プラヤ・ヒロンへの侵攻の後、とくに10月危機（ミサイル危機）以後、キューバ革命に対してヨーロッパのすべての国で少しずつ変化が起こってきました。現在ではその変化は、速まっています。我々の革命政府が存続していく、キューバ革命が存続していくと、我々は確信しています。この信条は、また、我々の行動や、我々が世界の資本主義諸国の貿易相手たちを保護する能力を持っている事実を通じて波及しており、多くの場合、キューバとの伝統的な通商関係を維持することが決められています。

ですから、以上のことから、こうした関係は、継続するだろうし、あらたな開始すらありえると、考えられます。なぜなら、貿易が停止されるならば、その後どのように交換部品を持ってくるのか、不安があったからです。しかし、その意味では、とくに英国とフランスは、我々ととても良好な関係を維持してきたし、両国がキューバの革命闘争の時期にキューバ

に販売してきた機械類用の交換部品を保証しました。そして、これによってまた、新しい機械類を輸入し、技術的に第一級の品質で、世界的に最先端の設備を備えて、発展途上のすべて一連の工場を増大させる可能性について、我々の信用が高まりました。

リサ・ハワード：もし突然、この西側との貿易が消滅したら、キューバ経済はどうなりますか？

エルネスト・ゲバラ：英語で Nothing(なにも) (笑い)。

リサ・ハワード：なにも。しかし、あなたは必要だと明言していますね。

エルネスト・ゲバラ：都合がいいのです。

リサ・ハワード：キューバに関する事で、米国が行うのを見てみたいとあなたが思うことはどんなことですか？

エルネスト・ゲバラ：その質問に正確に答えるのは大変難しいですね。少し非現実的です。より率直でより客観的な回答は、あらゆる意味でほぼないでしょう。賛成も反対もありません。一言でいえば、そっとしておいていただきたいということです。

リサ・ハワード：キューバと米国の間の関係正常化の可能性について、あなたは楽観的に感じていますか？

エルネスト・ゲバラ：これも、答えるのが大変難しいと思います。単純に状況を観察し、進み得るあれこれの道筋に対する措置を講じながら、成り行きを見守っています。米国政府の性格自身という一連の状況にもよりますし、世界の状況をどのように評価できるかにもかかっています。今までのところ、世界における力関係を正確に評価できる明確な兆しはありません。ですから、全面的な正常化が行なわれるような、明白な兆し也没有。今は、まったく海賊的な行為、キューバの漁民たちの逮捕、収監のような挑発にもかかわらず、物事が違う調子で進んでいる一定の兆しがあります。もしそうであるなら、少なくとも共存はできるでしょう。なんとか、長年に渡って米国政府と友人であることはできるでしょう。米国民に対しては、我々にはまったく何もないことを、米国民に対してキューバに少しの憎しみもないことを、あなたは、ここで見たことでしょう。

リサ・ハワード：ゲバラさん、たいへんありがとうございました。

エルネスト・ゲバラ：「デ・ナーダ (どういたしまして)」と、どう英語で言うのかわかりません。私はスペイン語で言わなければなりません (笑い)。

<フィデル・カストロに何か起きた場合は？>

リサ・ハワード：フィデル・カストロに何か起これば、キューバ革命の運命はどうなると思

いますか？ また誰が、権力の座に就くことになると思いますか？

エルネスト・ゲバラ：この質問の性質から、あなたは、暴力的な何かが彼に起こるようなことに言及していると推測します。当然、我々はそれを否定できませんが、キューバ革命にとって、とても大きな衝撃となるでしょう。フィデルは、議論の余地なく、万人の認める我々の指導者であり、そしてキューバが経験してきた非常に困難な一連の状況の中において、真の指導者です。そこで、指導者として世界的な卓越性を表してきました。我々のうちの誰もそのような卓越性を持ち合わせていないと思います。だが、闘いの歳月の中で、彼の傍らで我々は革命的な経験を手にし、彼の指導を受けた闘いの歳月の中で、比類のない学校において鍛えられてきました。それは、勇敢さ、自己犠牲、原則を守る決断、問題の分析といった学校でした。彼に何かが起こるような時でさえ、みんなで我々は前進することができるでしょう。

誰がその後任になるのでしょうか？ それは、のちに議論する問題でしょう。我々は、今、そのような種類の分析を行っていませんし、我々はいかなる願望も持っていません、誰もそうです。しかし、当然、弟のラウルは、兄弟だからではなく、彼自身の功績によって、第一副首相であり、キューバ革命の同じ針路を継続するのに、我々の中で最もふさわしい人物です。

リサ・ハワード：あなたは、実に長年に渡ってフィデル・カストロと緊密に仕事をしてきました。人として、また指導者としてのフィデルについてのあなたの意見はどうでしょうか？

…（録画が中断される）…

訳者註；下記にてインタビューの画像が見られます。

<https://www.youtube.com/watch?v=G9DyXX7YKuk>

解説註：

リサ・ハワードは、米国ABCニュースの最初の女性特派員です。彼女は、キューバを三度訪問し、1963年4月フィデル・カストロとインタビューしています。1964 RARE & RAW Interviews With Fidel Castro By Lisa Howard Of ABC News。カストロは、ここで珍しく英語で回答しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=AMxhnMQnwn0&t=2207s>

ゲバラがインタビューを受けたこの1964年の2月12日前後の時期、キューバは、次のような状況でした。ゲバラは、このインタビューを受けたとき、すでに、ボリビア行きを決意していたように思われます。

1962年2月3日 ケネディ米大統領、2月7日より大統領令第3447によって、キューバからの輸出入を全面的に禁止し、キューバ経済封鎖をおこなうと発表。食糧と医薬品を除いているが、これらは、一般輸出許可が必要とされることとなった。

1962年9月 米政府、キューバとの貿易に従事した船舶のアメリカへの寄港を禁止。

1962年10月16-28日 キューバ・ミサイル危機勃発。ゲバラ、キューバ西部のピナル・デル・リオ方面軍の指揮官として、アメリカ軍の侵攻に備える。

1963年11月 ジョンソン大統領、ミコヤンにケネディ前大統領がフルシチョフ議長に約束したキューバ不侵攻は将来も有効であると述べる。

1964年1月 フィデル・カストロ、訪ソし、砂糖協定を結び、1970年代は毎年500万トンの砂糖をキューバから買い付ける契約を締結。1970年砂糖1000万トン生産を目標とする。当時キューバの砂糖生産は、59/5,964ton, 60/5,862, 61/6,767, 62/4,815, 63/3,821, 64/4,590であった。61-64年まで、ソ連、キューバに4億5900万ドルのクレジットを供与。金利2-2.5%、期間10-12年。結局、1972年、キューバは支払わずに、1986年まで返済繰延べ、新たに金利取らず。1986年、さらに25年繰延べ。

1964年3月 ゲバラ、タマラ・ブンケ（タニア）と会い、将来のボリビアにおけるゲリラ戦の準備のため、先遣隊としてタニアがボリビアに行くことについて話し合う。タニア、ボリビア共産党とはコンタクトせず、政府の上層機関とのコンタクトの指令を受ける。

1964年半ばごろ ゲバラ、ベネズエラ共産党に、ベネズエラで展開中の武装闘争に参加したいと要請した。しかし、ベネズエラ共産党は、全国指導部会議において多数決でそれを否決する。

1964年11月4日 ゲバラ、第47回ロシア革命記念日のため、28日までソ連滞在。滞在中、ソ連の経済改革に強い疑問を抱く。当時キューバは、中ソ論争で、絶対的中立。

1964年11月22-26日 ハバナでラテンアメリカ・カリブ海諸国共産党会議開催。中ソに和解の代表団を派遣。中国で、毛沢東と会見。毛沢東、傲慢な態度でキューバ、カストロを批判。ガジェーゴス、カストロより連絡を受け、急遽ハバナに帰る。カストロ、ピネエロ、飛行場で待つ。カストロ、中国大使館に早朝抗議に向かう。

1964年12月9日 ゲバラ、キューバを出発し、国連での演説をはじめ3ヶ月にわたりアフリカ諸国を歴訪。12月11日国連で演説。平和共存は、大国間だけのものではない。搾取者と被搾取者、抑圧者と被抑圧者の共存までには及ぶものではないと協調。

1965年1月、ガジェーゴス、カストロの依頼で中国にゲバラと訪問するためアルジェリアに向かう。オスマニ・シエンフエゴス、エミリオ・アラゴネス同行。ゲバラと会い、激的な議論を交わす。その中で、ゲバラ、「ベネズエラのゲリラに参加したい」と述べる。ガジェーゴ、それはアメリカにベネズエラに干渉し、その後キューバの干渉と主張する口実を与えるだけ、受諾かどうかは、政治局が決定と回答。客観的・主観的現実の条件がないことから、武装闘争が消滅していたことがその理由であった。

1964年12月9日 ゲバラ、キューバを出発し、国連での演説をはじめ3ヶ月にわたりアフリカ諸国を歴訪。12月ソ連、アルジェリア、マリ、1月コンゴ（ブラザビル）、ギニア、ガーナ、2月タンザニア、エジプト、アルジェリアを訪問。

了